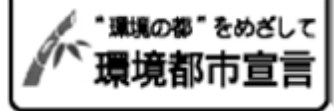


環境の都ニュース

2015. 3. 1 NO. 80



発行：長岡京市
環境の都づくり会議
発行責任者：江川 宗治
編集担当者：山本 雅夫

～ 自然の中で子供の心を育てよう！ ～

寒い冬もやっと終わりを告げ、春3月を迎えました。今年もまもなく筍が顔を出します。この時期になるとメンバーの活動にも力はいって来ます。1年間世話を続けた放置竹林からどんなご褒美が頂けるかその楽しみが膨らむからです。

さて、環境の都づくり会議でボランティアを始めて早や12年になりますが、私がボランティアを始めたきっかけの一つは、富山湾の素晴らしい海の恵みの話でした。豊富な魚介類が育つ海は、栄養豊かな水が作り出し、その水は緑豊かな山々が作り出す、自然にはそんな働きがあるんだと目からうろこでした。

そして、環境の都づくり会議に籍を置き、マイペースで作業をしていましたが、そのうち、自然環境の悪化が予想以上に急速に進行しているにも拘わらず、殆ど誰も手を打っておらず、放置されている現実気が付きました。また、仲間の皆さんにも感化され、少しずつボランティアに取り組む姿勢が変わってきました。

1人でマイペースも良いが、自分が一線を退いた時、やはり後を継いでくれる人が欲しい、活動の継続性が必要だとの思いが強くなりました。そのためには、今の子供達にも環境問題に関心を持ってもらう取組みをしなければと思うようになってきました。

そこで私達が力を入れているのが小学生対象の“すくすく教室”です。この取り組みでは、自然観察や自然に触れる事を通して、自然を愛し、大切にすることを育み、そのことを通して、人にやさしい、心豊かな子供を育てられたらと思っています。

春は竹林でのタケノコ堀体験、夏は小泉川での川遊び、冬は竹林での竹炭焼きや竹細工などのほか、今春からは金ケ原に竹林再生活動の一環として造成した“憩いの森”では、自然を活かしたフィールドアスレチックで、竹の勉強や工夫して遊ぶ楽しさを体験して頂くプログラムを通年で実施する計画です。

私達が子供のころには山や森、川など自然が遊び場で、仲間たちといたずらもし、危険な目にもあったものです。そして、自ら見たり体験する事で知らず知らず色々なことを学び、鍛えられたものです。

昨今は便利な世の中になった代償として自然が壊され、自然の中で遊ぶ子供たちの姿は少なくなりました。そして、文明の利器に頼った遊びに偏り、身も心も子供らしからぬ子が増え、陰湿ないじめや悲惨な事件が目立つようになってきました。時代の変化に伴い子供たちの生活も変化していきますが、変えてはならないものは人の心、人を愛し、自然を愛する心です。

私達の時代遅れの話や流れに掉さず取り組みが、少しでも子供たちが自然に目を向けてくれることにつながればと願っています。“ジイジ、気いつけや！”との孫の声を背に、今日も足場の悪い竹藪で、額に汗し、生傷やアザをつくりながら頑張っています。

ご興味のある皆さん、是非お力をお貸しください。よろしくお願ひ致します。

ビオトープ、竹林再生、花いっぱいPJTメンバー 神山 忠





ビオトープ P J T



竹やぶで 第十小すくすく教室

H27年2月7日、長岡第十小学校児童31名、父兄8名の参加で、元気に、賑やかに本年度最後の竹やぶでのすくすく教室を行いました。全員への環境紙芝居の後、4つのグループに分けて、炭焼き、竹伐り、竹工作作り、竹の弓矢遊びなど竹にまつわる勉強とお遊びを楽しんでもらいました。1年生から5年生まで幅広い年齢層の子供達への対応はなかなか難しく、特に環境紙芝居や炭焼きの話は苦勞しましたが、我々自身も勉強させられた一日でした。最後に、炭火で焼いたお餅を振る舞い、「やっぱり炭で焼いたお餅は美味いなー」の歓声の響く中で竹藪を後にしました。4月には長岡天神公園内の竹林で、恒例の筍堀体験が始まります。小学校の皆さん、是非楽しみにして下さい。

ビオトープPJT 小根田、西村孟雄



全員集合



竹の弓矢遊び



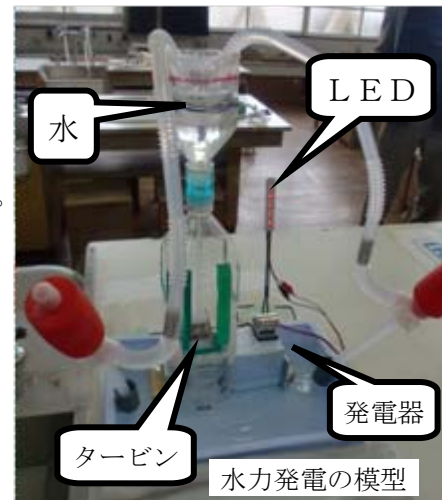
エコチーム P J T



神足小学校で「放課後子ども教室～環境科学あそび」を開催しました

神足小学校では、1学期に5、6年生と4年生、2学期に3年生、3学期に1年生と2年生の放課後子ども教室（すくすく教室）を開催し、合計140人もの大勢の児童に「環境科学あそび」を楽しんでもらいました。内容は、自分で電気を作る実験です。太陽光発電や風力発電、燃料電池など二酸化炭素を出さない「地球にやさしい発電」を、発電グッズを使って実際に体験することで、いろいろな電気の作り方を学びました。2月19日（木）の1年生の実験では手作りの水力発電の模型も加わり、水の力で発電器を回し、電気のできる様子を確かめました。これらの発電体験が、大人になっても「環境にやさしい電気」を使う習慣につながってくれることをスタッフ一同期待しています。

エコチームPJT 田原誠一郎



水

LED

発電器

タービン

水力発電の模型

実験の説明を受ける



竹林再生 P J T



竹炭を贈呈

今年も低炭素杯全国大会が39の学校・団体のファイナリストの参加で2月13日・14日に東京で開催され、長岡第四小学校が2年続けて出場されました。それに際し、サポート役の市の環境政策監から会場に持参する長岡京らしいお土産の相談を受け、ビオトープPJTが新しく取り組んでいる一斗缶に詰めた定尺に切りそろえた竹炭20袋を贈呈しました。炭は従来になく焼き具合も良く、見た目にも体裁の良い自信作で、PJTメンバーが作成した手製のシールと竹炭の効能書きも添えています。

長岡京市のボランティア組織である環境の都づくり会議の活動や“竹の長岡京市”を知ってもらう良い話題になれば幸いです。因みに、2年続けて出場した長岡第四小学校は「伝えて広げる」kyoのながよんエネルギー学習”をテーマに発表、堆肥化による家庭ごみ削減とその有効活用でCO2削減にも貢献、学校内だけでなく、家庭や商店街をも巻き込み、地域の環境意識の向上に貢献したとして、協賛企業団体賞の“最優秀地域・学校エコ活動賞”を受賞。昨年に引き続き受賞、おめでとうございます。これからも活動を継続され、環境保護活動の輪がますます広がることを期待したいものです。



竹炭を贈呈



竹林再生PJT 渡辺節郎

チェーンソウにびっくり、四小すくすく教室

2月18日水曜日、四小すくすく教室で約40名の子供たちに里山保全の話と、ものづくり教室の材料に木の実などを提供しました。山で起こっている困ったこととして、マツ枯れ、ナラ枯れ、竹の侵入、シカに若木が食べられる、ごみを捨てられるなどを話しました。山の



写真②

道具を持って行って、間近に見たり観察してもらいました。竹用のノコギリ、木用のノコギリはどこがちがう。ヘルメットや皮手袋、チェーンソウは実際に動かしました。ワー恐い、排気ガスがくさい、音が大きいと大騒ぎ。飛んで逃げてくれた男の子もいました。提供した自然素材、サクラまたはキリの輪切りの上に、クヌギの実とはかま、ムクロジ、シャリンバイ、ツバキの実・フジのさや、ナンキンハゼ、マツボックリ、ナンテンの枝などを飾りました。写真①



写真①

里山再生 P J T 加藤



環境教育 P J T

第78回 環境教育ミーティング 開催のお知らせ
(平成26年度のテーマ：環境と持続可能性)

命の水を求めて 死の砂漠が緑の大地に
—地球温暖化による大旱魃と格闘する日本人—

日時：平成27年3月19日（木）夜7～9時
会場：長岡京市立 中央公民館 2階・講座室
講師：西山 浩司（にしやまひろし）さん

参加 無料



H地区・通水前のスランブール平野



H地区・通水から3年後のスランブール平野



担当 環境教育 P J T 西村日出男

お話の内容

- アフガニスタン「命の水を求めて」
中村哲医師の仕事 (DVD)
- 私の見たアフガニスタン (スライド)
(アフガニスタンでのボランティア活動)

プロフィール

- 1969年 大阪府立大学電子工学科卒
- 1969年 村田製作所 入社
- 2007年 村田製作所 退社
- 2007年 アフガニスタン PMS 参加
- 2008年～長岡京市高齢者向け配食ボランティア 参加
- 2009年～長岡京市学校支援活動 参加
(長法寺小学校・長岡中学校)



トピックス



四小 環境教育全国大会四冠達成！

— めぐす子ども像 「よく考え 心豊かで 元気な子」 —

長岡第四小学校は本年度全国規模で実施された以下の環境教育イベント四大会ですべて入賞され、四冠を達成されました。

1. 地球温暖化防止全国ネット主催：低炭素杯2015「最優秀地域・学校エコ活動賞」
2. 全国銀行協会主催：第7回 ECO壁新聞コンクール「団体賞」
3. 電気新聞主催：第9回 エネルギー教育賞「優秀賞」
4. 産経広告社主催：学校自慢エコ大賞「優良賞」



(有)長岡美装社

第2回の「Ecoに取り組むお店や会社」は(有)長岡美装社さんをご紹介します。

1964年(昭和39年)の東京オリンピックの年に創業され、50年以上の長きに渡り、長岡京市内を中心にした各種廃棄物の収集運搬業を営んでこられました。主に事業系一般廃棄物と言われる飲食店や事業所から排出されるさまざまな可燃ごみの回収からスタートされ、現在では、会社などから排出される産業廃棄物や病院などから発生される感染性医療廃棄物、マンションから排出される家庭系廃棄物と幅広い廃棄物処理事業を進めておられます。

2代目社長の今井孝一さんは「地元長岡京市に少しでも社会貢献したい」との強い思いから、10年前に使用済み天ぷら油の回収に取り組まれ、現在では30個所の拠点から年間約12,000Lを回収され、その油を精製した後、自社の収集車両2台にカーボンニュートラルな「バイオディーゼル燃料(BDF)」として使用されています。

このように天ぷら油の原料になる植物は大気から汚染源のCO2を吸収しており、これらの植物由来の燃料を燃焼することによるCO2はあらたに増加しないこととなります。これを「カーボンニュートラル」と言います。

その他にも、地域活動においては長岡京市の西山森林保全活動にも参加され、傾斜地の多い放置森林の伐採や玉切りを行うなど野山の整備への取組みや、「KES・環境マネジメントシステム」の取得、「エコ京都21」、「みどりのサポーター」、「京都グリーンネットワーク」、「消防団協力事業所」「災害時の応援協定」などへの認定・登録をされ、地域社会から信頼され「選ばれる会社」を目指して頑張っておられます。

今井社長は「企業は人なり」の信念から社員の健康に対する意識は強く、定期健康診断や職業性疾病予防に加えがん検診を行うなど積極的に取り組まれ、京都府から「きょうと健康づくり」実践企業認定の優秀賞を授与されています。今回の取材を通じて、本業を大切にされた健全な企業作りと地域社会への貢献を常に意識される今井社長の若さとバイタリティーに益々の期待をしたいと思います。

玉切り:立木の伐倒後、枝払いをし、一定の寸法に切断して素材丸太にすること。



★★★ 環境の都づくり会議のプロジェクトと連絡先 ★★★

プロジェクト名	内 容	連絡先	T E L
里山再生PJT	里山再生	加藤 克巳	951-0933
環境教育PJT	環境教育	西村 日出男	952-3718 FAXも同じ
		E mail : sun246ra@mbox.kyoto-inet.or.jp	
エコチームPJT	地球温暖化防止	田原 誠一郎	953-1696
ピオトープPJT	ピオトープ	小根田 勝信	957-4081
花を咲かそうPJT	花を咲かそう	湯川 智子	952-5505
竹林再生PJT	竹林再生	湯川 圭造	090-8759-1757
環境の都づくり会議 代表	活動全般	江川 宗治	957-6169 FAXも同じ
		E mail : egawam@kyoto.zaq.ne.jp	

事務所：多世代交流ふれあいセンター内 (〒617-0812 長岡京市長法寺谷山13-1)

環境の都づくり会議のホームページを作りました。各PJTの活動内容と写真などが有ります。是非ご覧ください。
アドレス= <http://kankyonomiyako.jimdo.com/>

「環境の都づくり会議」では、さらなる活動の飛躍を期して活動協賛金を募っております。協賛金：一口年間1000円(一口以上) あなたも「長岡京市環境の都づくり会議」に参加してみませんか。どなたでも参加できます。連絡、問い合わせは上記プロジェクトの連絡先へ下さい。

編集後記：山の村おこしで間伐材を付加価値の高い用途にする事業開発が盛んで、間伐材を主原料としていた木材チップの品不足へ。長岡京は放置竹林などで「(不要)竹」の始末に困っています。(我が「竹林再生PJT」も頑張っていますが)京都府内も同様の地区が多くあります。木材チップの代用や、間伐材のように用途開発が進めば、環境・経済・地域活性化などに好影響をもたらすのと思います。(文；山本)